

広報

小田原

city of odawara public relations

まちづくり情報誌

2008
FEB
2 / 1号

平成19年
神奈川県広報コンクール
最優秀受賞



「城山の百段坂」
小田原駅西口の程近く、戦
国時代の小田原城があった八
幡山の東側にある百段坂。
現在の小田原高校が今の場
所に移転した約百年前にはす
でにあったこの坂は、生活道
路としても使われています。
この風景は青春の1ページ
として、これからも生徒の心
に刻まれることでしょう。

しなやかに、したたかに、しっかりと

行政改革の

これから

これまでと



平成14年度から23年度までの行政改革の方針をまとめた、行政改革大綱「おだわら改革宣言2002」この大綱を基に、着々と行政改革を進めていますが、今年度、推進期間の中間地点を折り返しました。そこで、これまでの5年間の成果とこれからの5年間の取り組みを報告します。

☎行政経営室 ☎33-1305

これまでの行政改革の成果

平成14～18年度の5年間の行政改革は、その具体的な行動計画「おだわら改革宣言2002実施方策」に基づき、「地域の活性化」「財政運営システムの見直し」「職員の意識改革」「主体的自治の確立」「市民満足度の向上」の5つを重点目標として進めてきました。

この改革の成果は、金額に直すと約25億円。支出を減らし、収入を増やすことで得られたこの金額は、今年度一般会計の収入の約5%。また、金額では表せませんが、市民の皆さんの満足度を市政の運営に反映する仕組みや制度を新たに作り、施策や事業を行うシステムに組み込みました。

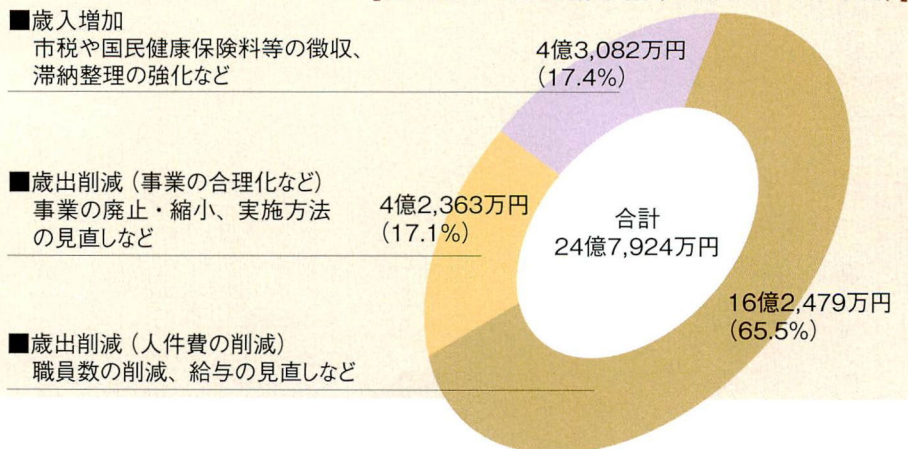
市民満足度の向上

これまでの市の取り組みに満足しているか、これからの事業分野が重要と考えているか、市民の皆さんの意向を確認することから行政改革はスタートしました。市民3,000人を対象に、「市民満足度・重要度調査」を毎年実施し、その回収率は毎回60%を超えています。市民の皆さんの高い関心と共感に支えられ、行政改革を進めてきました。

「重要度」が高いにもかかわらず「満足度」が低い事業には、市民税の1%に当たる1億円を重点配分。例えば、「子育て支援策の充実」として、小児医療費助成の拡大が実現しました。

「不満」を解消し、満足度を向上させる事業を部長の「市長との約束」とし

【行政改革の主な効果額(平成14～18年度)】



職員数も削減

職員の人数は最大の事業費です。市民満足度向上行動計画「おだわら改革宣言2002」もスタートさせました。「防犯対策の充実」の分野で、「防犯灯が暗い」という不満を解消するため、照度の高いインバータ電球への切り替え費用を補助する「灯の明るいまちづくり事業」もここから生まれた一例です。

職員の人件費は最大の事業費です。市民

民の皆さんへのサービスを向上させつつ、どのようにして職員数を削減するか、適正な職員数にするための改革努力を重ねてきました。

業務の委託化や効率化と合わせて、新規採用の職員数を抑えることで、平成19年4月1日現在の職員数を1,896人まで減らしました。

現在の行政改革がスタートした平成14年度は2,073人だったので、177人、8.5%の減。職員数が最も多かった平成6年度の2,338人に比べて、実に18.9%、442人と、県下トップクラスの削減を実現しました(次ページのグラフを参照)。

部局長の権限を拡大して効率化

事務の効率化を一層進め、現場の状況と変化に素早く対応できるよう、部局長の権限を大きくし、現場感覚を磨き「顔の見える行政」を心掛けたのも、この改革の成果の一つです。

予算面では、部局に一定の枠としてあらかじめ予算を配分し、部局長が重要度や優先度を判断し、予算編成ができる「総額管理枠配分方式」を取り入れました。

また、減員によって市民サービスが低下しないよう、人事面でも部局長の権限を拡大し、部局内の人事配置や職員の応援を弾力的に行えるようにしました。

『市長との約束』を公表

事業の責任者である部局長が、自ら責任を明らかにしたうえで、市民の皆さん

からの要請にこたえるために、市民の代表でもある市長と合意を行う「市長との約束」を制度化しました。

「約束」は、各部局の課題や市長の指示事項を踏まえて重点的に行う「重点事業計画」、市民満足度・重要度調査で市民の皆さんから寄せられた不満を解消するための「市民満足度向上行動計画」、職員の人件費以外の予算

【成果目標と成果実績 (実施件数: 合計388件)】

成果目標 (実施件数)	主な実施事業	主な成果実績
地域の活性化 (49件)	● 市民活動推進条例の施行	市民活動サポートセンターの登録 157団体 → 345団体
	● 市民活動応援補助金の創設	市民活動応援補助金の交付 49件・6,717千円
財政運営システムの見直し (156件)	● 水道料金などの徴収業務の順次委託	職員数 2,073人 → 1,896人
	● 補助金支出の見直し	削減した人件費 16億2,479万円
	● 入湯税の導入	市債残高(普通会計※1) 約625億円 → 約569億円
		ゼロ予算事業の実施 182件
職員の意識改革 (28件)	● 民間企業経験者対象の採用試験の実施	職員提案 69件 → 86件、うち事業化2件
	● 行政サービス品質向上運動の実施	業務改善提案活動 118件・4億8,297万円(合理化見込み) 職員の自主研修グループの活動 延べ22グループ・553人
主体的自治の確立 (17件)	● 構造改革特別区域制度の活用	構造改革特別区域制度における規制の特例措置の活用
	● 予算の総額管理枠配分方式の導入	提案24件、認定3件
市民満足度の向上 (138件)	● 市民満足度・重要度調査の実施	市民が選ぶ予算の使い道制度 27事業・3億543万円
	● 市民が選ぶ予算の使い道制度による予算配分の実施	情報公開制度の活用 76件 → 502件
		公共施設予約システムの利用 6,443件 → 32,539件
		子育て支援センターの利用 8,836人 → 46,032人

(※1) 普通会計: 地方公共団体の財政比較のため、地方財政会計上統一的に用いられている会計。

をかけず、知恵と汗と情熱により行う「ゼロ予算事業」の3種類。
今年度からは、「部局長の事業マニフェスト」として市民の皆さんに公表し、106事業を実施しています。

補助金も例外ではありません

学識経験者や各種団体の代表など、外部のかたを委員とする「補助金等検討委員会」を作り、その答申を受けて、補助金を見直しました。

平成17年度は、所期の目的を達成した補助金や本来団体が独自に負担すべき補助金などを廃止・縮小し、翌18年度当初予算では前年度比約4,435万円を合理化しました。

さらに、18年度には補助事業の成果目標とその達成度、詳しい経費と審査基準を明らかにしています。

これにより、補助金の透明性や合理性がさらに高まりました。



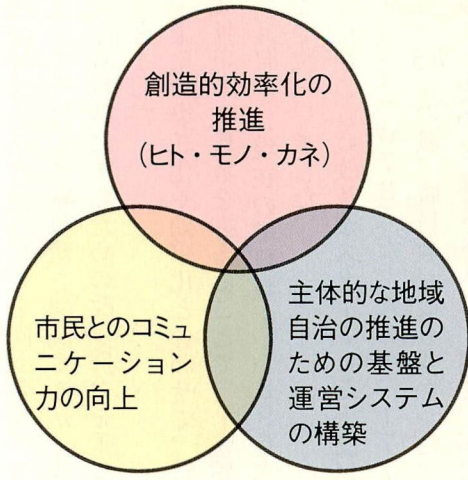
これからの行政改革

行政改革は、一つずつ成果を検証していくと同時に、これからの成果を生み出し続けるために、職員の意識や職場の雰囲気を変えることが大切です。これからもさらなる改革を進めるため、昨年9月に平成23年度までの具体的な行動計画、「おだわら改革宣言2002後期実施方策」を策定しました。

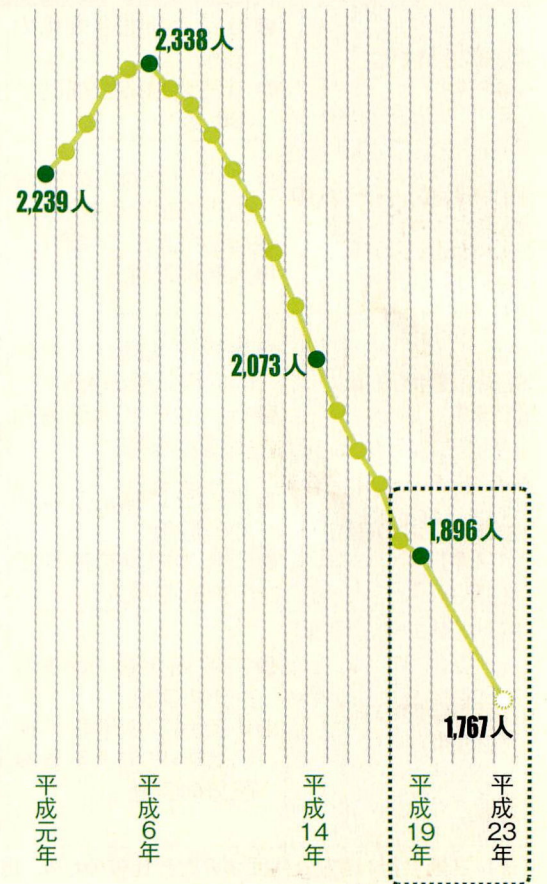
この計画では、「創造的効率化の推進」「市民とのコミュニケーション力の向上」「主体的な地域自治の推進」を柱に掲げ、これまでの成果と課題を踏まえ、市民の皆さんへ還元する「行政改革の配当」の実現を目指しています。

ヒト・モノ・カネの創造的な効率化

これからの市政は、右肩上がりの税収が期待できない状況の中で、高齢者や子育て世代、障害者などへの支援、老朽化が進む公共施設の維持管理や修繕、激し



【平成元年以降の職員数の推移と今後の予定 (各年4月1日現在)】



くなる都市間競争など、時代の変化に対応した事業を強化することが求められています。

そのために、行政運営の大切な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」の効率性を高め、そこから「行政改革の配当」を生み出し、それを事業に充てる必要不可欠です。

そこで、「ヒト」の効率化として、今後5年間で、現在の職員数をさらに6.8%以上削減して1,767人以下。そして、業務改善を進めて、職員の生産性を高めながら、事業の効率性を高めていきます。

そのために、職員以外でもできるものや、民間のほうが効率的で質が向上すると考えられる業務などはさらに委託化を進めるとともに、業務委託の効率性や品質を管理する仕組みも作ります。

また、公共施設での市民サービスの向上と運営経費の削減のため、民間企業

や市民活動団体なども公の施設の管理運営主体となる指定管理者制度を積極的に導入し、活用していきます。

平成23年度までに、20以上の施設への導入の可能性を探ります。

「モノ」の効率化としては、施設の維

持管理や運営、活用までを統合的に策定・管理するファシリテイ・マネジメント(※2)体制を整備するとともに、地域の皆さんに施設の運営・管理を委託するなど、地域との協働により施設の活性化を推進します。

そして、「カネ」の効率化としては、財政の健全性を確保するとともに、生活満足度の向上やまちの成長のための財源を確保する努力が欠かせないことから、事務の効率化や不要な土地を売却して資産を圧縮するなど、行政のスリム化に取り組みながら、平成23年度末時点で、市民一人当たりの市債残高(普通会計)を25万円まで削減し、財政運営の健全化を図ります。

※2 土地、建物、設備などのコストの最少化や効用の最大化を図るための、総合的・長期的視点での経営管理手法

市民とのコミュニケーション力の向上

行政改革の究極の目標は、市民の皆さんへの行政サービスの向上と地域の活性化を実現することです。

「市民が選ぶ予算の使い道制度」など、



数字が語る
 行政改革のこれまで ①

全国 219位 → **12位**

全国779市と東京23区を対象に日本経済新聞社・日経産業消費経済研究所が隔年で実施している「行政サービス度調査（行政革新度）」で、平成14年度の219位から18年度には12位に大きくランクアップしました。

本市の効率的な行政運営や市長からの部局長への分権化、市民満足度向上のための取り組みなどが評価されたのです。

数字が語る
 行政改革のこれまで ②

54億円のマイナス
34億円のプラス

平成18年度までの過去5年間で、一般会計の歳入総額が54億円減少したにもかかわらず、子育て支援や高齢者支援、生活保護など福祉分野への支出は34億円増加しました。

行政改革により削減した人件費などは、これらの福祉への支出増加分などにも充てられています。

数字が語る
 行政改革のこれまで ③

**64.5%、66.1%、
 66.5%、62.1%、
 60.7%**

「市民満足度・重要度調査」の回収率は、平成14年度の第1回調査から、毎回60%以上の高さを誇っています。市民の皆さんの高い関心と強い期待から、行政改革を進めることができ、改めて、ご協力に感謝します。

言葉ではなく具体的な行動

これからの市政を効果的に行うためには、地域の課題や活性化に地域の住民が自ら取り組むことも必要です。地域、市民、行政の間の連携を高める体制とシステムを構築し、総合的に推進する機能を強化します。

また、「顔の見える行政」を目指し、職員の現場感覚を磨き、市民の皆さんと市役所の距離を縮めていきます。

これからの行政改革の重点行動項目は、

主体的な地域自治の推進と支援

これまでの市民満足度向上のための取り組みを統合的に仕上げ、実りあるものにする必要があります。そのために、さらに市民の皆さんとのやり取りを深め、「市民生活満足感指標」を作り、それを成果目標にして事業を進めます。皆さんの意思を把握して市政に反映させ、市政への共感と信頼を高め、満足感の高い市政運営を目指します。

「創造的効率化の推進」「市民とのコミュニケーション力の向上」「主体的な地域自治の推進」の3つですが、それらをより具体的に、分かりやすく皆さんに説明できるように、5つの成果目標を作りました（下記参照）。

そして、改革すべき項目ごとに134事業を位置づけ、平成23年度までの年次計画として具体化しています。

もちろん、それにとらわれることなく、財政状況や社会経済情勢、市民ニーズなどの変化に応じて、事業を見直し、再編していきます。

.....

これまでの5年間に引き続き、これからの5年間も、人材、予算、財産、情報という限りある行政資源を最大限活用し、時代や生活環境の変化に対応して、より創造的に、より発展的に、市民満足度の高いサービスを最少のコストで提供できるように、行政改革をタイムリーかつスピーディーに進めていきます。

5つの成果目標

◆ **地域の活性化（12事業）**

主な予定事業例：「市民参加による総合計画の策定」
 平成23年度からの新総合計画に向け、市民の意見を反映したものになるよう、計画づくりの段階から市民参加を得て、市民との協働による策定作業を行います。

◆ **財政運営の健全化（32事業）**

主な予定事業例：「学校用務業務及び学校給食調理業務の委託化の順次拡大」
 一部の小・中学校などではすでに実施している用務業務と給食調理業務の委託化を順次拡大し、効率的な実施と安定的なサービスの提供を行うとともに、人件費を削減します。

◆ **職員の意識改革（8事業）**

主な予定事業例：「部局長の事業マニフェストの推進」
 重点事業計画、市民満足度向上行動計画、ゼロ予算事業の3つからなる「部局長の事業マニフェスト」を定めて部局の目標を明確にし、全職員の目標達成への意欲の向上と事業のスピーディーな実施と成果を確保します。

◆ **主体的自治の確立（35事業）**

主な予定事業例：「市町村合併の方向性の決定」
 県西地域2市8町の枠組みで合併した場合を想定し、新たなまちづくりの可能性や将来の都市像を検討するとともに、これらの情報を市民に提供しながら、平成22年3月末までに合併の方向性を示します。

◆ **市民満足度の向上（47事業）**

主な予定事業例：「市民生活満足感指標の作成」
 市民の皆さんとやり取りをしながら、市民生活満足感指標を作り、それを事業の成果目標にすることで効率性を高め、市民と行政の相互理解を深めていきます。

「おだわらの道」が選ばれました

市内に数多くある、自然や歴史、文化や生活のたたずまいを豊かに感じられる道。そんな道を市民や地域の皆さんと連携して、魅力的な観光資源や郷土の財産として育てようとする「おだわらの道」に、市で近年行った事業としては最多の応募がありました。

建設政策課 ☎331533



お堀端通り

■「おだわらの道」集計結果 (応募件数:2,024件)

- ①お堀端通り～国道1号～かまぼこ通り
…384件 (19.0%)
- ②早川～石垣山～夜城～入生田
…246件 (12.1%)



石垣山農道



国道1号周辺



- ③城南中学校～伝肇寺～小田原文学館
…244件 (12.0%)



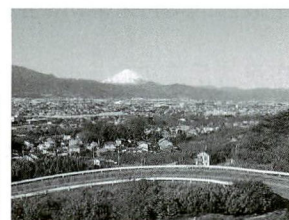
西海子通り



白秋ゆかりの小径

- ④板橋の旧東海道～松永記念館～山月・古稀庵…230件 (11.4%)
- ⑤報徳橋～富士道橋(酒匂川右岸沿い)…180件 (8.9%)
- ⑥剣沢川～曾我梅林～城前寺…178件 (8.8%)
- ⑦栢山神社～二宮尊徳生家～捨苗栽培地跡～仙了川沿い…144件 (7.1%)
- ⑧佐奈田霊社・石橋山古戦場～根府川…141件 (7.0%)
- ⑨大稲荷神社～山手橋・谷津丘陵～小峰配水池…116件 (5.7%)

- そのほか、こんな道も…161件 (8.0%)
- 桜の馬場(沼代) けやき通り(荻窪) 田島農道(田島)



昨年10月1日から2か月にわたり募集した「おだわらの道」には、全国から2,000件を超える応募があり、選ばれた主な道は集計結果のとおりです。また、私たちの暮らしに欠かせない道とその周辺の環境をより輝かせるため、地域の皆さんが取り組むことのできる道づくりのアイデアにも、300件を超える応募がありました。市では、皆さんからお寄せいただいた結果を参考に、市民の皆さんと連携しながら、将来に向けて大切にしたい「おだわらの道」が魅力的な資産となるよう取り組んでいきます。

■道づくりのアイデア(応募件数318件)

- ①道路清掃…85件 (26.7%)
 - 自主的な道路清掃活動
 - 自治会(町内会)に管理を委託 など
- ②緑化活動…83件 (26.1%)
 - 植栽・街路樹の整備
 - 街路樹や生け垣の管理 など
- ③道路整備…66件 (20.8%)
 - 案内板の整備
 - 歩道の拡幅・整備 など
- その他…84件 (26.4%)

見直そう家庭のエネルギー

「地球の温暖化なんて、話が大きすぎてピンとこない」と思ってた方も多いかもしれません。

しかし、できることから始めようと、自治会なども協力し、夏には約1,600世帯のかたが、「環境家計簿」を実践しました。

環境家計簿は、毎月使った金額を確認する家計簿と同じように、毎月使ったエネルギー量をチェックすることで温室効果ガスの排出を減らそうというもの。家庭で何げなく使っている、エネルギー（電気・ガス・ガソリン・灯油）を無駄に使っていないか、この環境家計簿で確認しましょう。

また、「テレビは見ないときは消す」「人がいない部屋の電気を消す」「エアコンの設定温度を冬は20℃に」などの省エネは簡単に取組むことができます。一人では省エネ効果が少なくても、みんなが実行すれば大きな効果につながります。重要なのは実行することなのです。

始めよう「エコ通勤」

マイカーは、日常生活で発生する温室効果ガスの主な発生源となっています。「エコ通勤」はマイカーで通勤をしているかたに、地球環境への負荷を減らしてもらおうというもの。

例えば、電車・バスなどの公共交通機関を使ったり、徒歩や自転車などで通勤



省エネルギーで地球にやさしい生活を

エアコンやテレビなどの電化製品、
鉄道・バスなどよりもエネルギー消費量の多い自家用車。
私たちの便利で豊かな生活はエネルギーの大量消費により、
地球温暖化など環境に影響を与えています。
省エネルギー月間の今月、ライフスタイルを考え直してみませんか。

環境政策課 ☎33-1472

したり、近所の人と相乗りしたりして、マイカー通勤を減らす。時差通勤への切り替えや、急加速・急発進・急ブレーキなどをせず環境にやさしいエコドライブをするなど、方法はいろいろあります。皆さんもできることからやってみましょう。

県に認められた取り組み 「低公害車の走るまち・おだわら」

国が地球温暖化対策の一つとして進めている「一村一品・知恵の環づくり」事業。

県でも、地球温暖化防止活動センターが、県内の地球温暖化防止活動を募集し、ストップ温暖化「一村一品・知恵の環づくり」in神奈川を選びました。自治体、大学、NPO法人など21団体の中から、「低公害車の走るまち・おだわら」が優秀賞を、「省エネナビを活用した地球温暖化対策の実践」も部門賞を受賞しました。



また、併せて行われた県の「環境にやさしくらし自由研究・実践レポートコンクール」の小学生の部では、久野小学校5年の小澤範之さんが、「家の中の紙ゴミを減らして地球を救おう！」のテーマの研究で優秀賞を受賞しました。

夏休みの宿題で、ふだんの生活の中で紙ごみはどのくらい出るのか、そもそも紙はどうやってできるのか調べてみました。新聞や雑誌、段ボールなど、1日に出る紙ごみの量が思っていたより多かったので驚きました。紙を多く使えば、その分、原料である木が減り、二酸化炭素が増えて地球温暖化が進んでしまいます。使った紙も、無駄に切ったり丸めて捨てたりしないで、毎日きちんと分別すれば、リサイクルできて木も守られます。そして、世界中のみんなが取り組めば、地球の環境はよくなると思います。

環境にやさしくらし自由研究・実践レポートコンクール
小学生の部 優秀賞受賞

久野小学校5年
小澤範之さん



おやつ!?

と思ったら…



消費生活相談へ

県内初の男性相談員も誕生

暮らし安全課

☎ 33 1775

消費生活センター相談専用ダイヤル

☎ 33 1777

減りつつある苦情相談

今年度の上半期(4～9月)に西さがみ連邦共和国消費生活センターで受け付けた苦情相談は715件で、昨年度上半期の899件と比べ20・5パーセントの減少となりました。

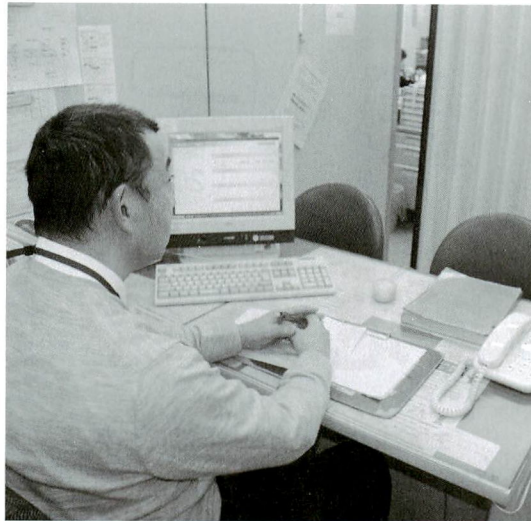
しかし、水道局員や消防署員を装った浄水器や消火器の販売、役所に認められた会社をうたい文句に、住宅の耐震診断やリフォーム工事の契約を迫る怪しい訪問販売などの相談は続いています。

「おやつ」と思ったら、すぐに消費生活センターへご相談を。

県内初の男性消費生活相談員も

消費生活センターで相談を受けているのは専門の資格を持った相談員。ほとんどが女性ですが、西さがみの消費生活センターには県内初の男性相談員も誕生しました。

その相談員からは、「約8年前に消費生活アドバイザーの資格を取り、この資格を生かした仕事をしたいと思っていたところ、



『相談員実践養成講座』の案内が届いたので、早速受講しました。講座を修了してもすぐに相談員になれるとは限りませんが、全国的な資格ですのでチャンスはあります。幸い、私には昨年の春にその機会が巡ってきました。皆さんのお役に立てるよう頑張ります」という抱負が。

今後さまざまな視点から相談対応をしていきますので、一人で悩まずに早めに相談してください。

<消費生活相談員との消費者問題交流会を開催>

消費者被害を防ぐ方法やトラブルに巻き込まれたときの対応、消費生活相談員の資格を取るには…など、この機会に身近にいる消費生活相談員に聞いてみませんか? 気になる話題がいっぱいです。

日時 2月13日(水)10:00～12:00 **場所** 市役所
対象 市内在住の20～50代のかた30人・先着順 **費用** 無料
申込 2月6日(水)までに、暮らし安全課に電話で。

市長随想

まちづくりの潮目の年

―新春仕事始め式挨拶より(二部抜粋)―

文 小澤良明

皆さんあけましておめでとございます。

昨年はまちづくりに小さな芽が出たり、つぼみを持つたり、少しずつ花さえ咲き始めて、小田原らしい新しい城下町づくりの基盤やら装置やら仕掛けやらがようやく整い始めた年でした。平成二十年はこの敷いたレールに新しい電車が「出発進行!」と走り始める年だと思います。

しかし内外の諸環境を考えると世はまさに一大転換点にあります。小田原市にとりましても、まちづくりの軸足を移す必要があるのではないのでしょうか。色々な意味を込めて私は、平成二十年を「小田原のまちづくりの潮目の年」と位置付けます。

一つには、今まで以上に市民の満足感を念頭におくことが大切になっていくことです。活力のある住みよい城下町づくりのための手は色々打ってきました。これからは、そこに住んで未来を賭けていく市民一人ひとりの満足度の向上を図る必





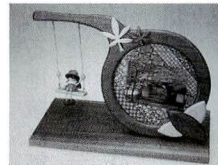
【大賞】
★グレープ貯金箱

松島 由佳さん
(明星中1年)
製作: (株)石川漆器



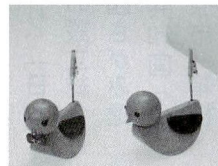
【準大賞】
★箱根町旗ものさし+写真入れ

浅田 友也さん(仙石原中3年)
製作: 箱根物産寄木工芸協同組合



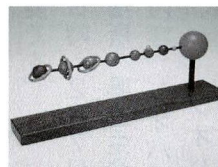
【準大賞】
★夏のぶらんこ写真

秋山 恵里さん(城南中1年)
製作: (株)山本産業



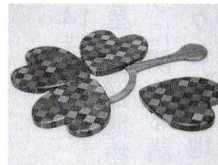
【優秀賞】
★ゆらゆらびよちゃん

代田 亜樹さん(仙石原中3年)
製作: (有)おくや物産



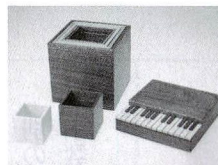
【優秀賞】
★太陽系

飯泉 紅葉さん(真鶴中1年)
製作: 小田原木工産業組合



**【特別賞 県産業技術センター
工芸技術所所長賞】**
★クローバー

澤野 遥香さん(町田小3年)
製作: 寄木細工のつゆき



【特別賞 箱根物産連合会長賞】
★木の音楽会

垂水 湊さん(新玉小5年)
製作: (有)本間木工所



【特別賞 審査委員賞】
★POP STAR 小物入れ

栢本 唯さん(片浦中3年)
製作: (株)露木木工所

Mokuture
「あなたのウッドクラフト展」
受賞作品決定!!

小田原・箱根地域の青少年と地元の伝統産業である木製品を結ぶ、Mokuture「あなたのウッドクラフト展」。自由な発想で木製品の新たなアイデアを募集したところ、896点の応募がありました。第1次審査を通過して、若手木工技術者が実際に製作した22点の作品の最終審査が昨年12月11日に行われ、大賞ほか各賞が決定しました。

産業政策課 ☎33-1515
(社)箱根物産連合会 ☎32-5252

モクチャー作品展

今回紹介した受賞作品をはじめとする22点の入選作品を展示します。

【第1回】2月22日(金)～24日(日)10:00～17:00 箱根観光物産館

【第2回】3月8日(土)10:00～17:00・9日(日)10:00～15:00 小田原宿なりわい交流館

【表彰式】3月9日(日)16:30～ 市民会館

要があります。

二つ目に、従来はハードとソフトを絡めてやってきました。ハードは目立ちますが、総合的に勘案すると、今後はソフト主体のまちづくりを推進すべきであるうと思えます。周辺環境が厳しい中でこれまで以上に知恵と汗と情熱が求められます。

三つ目に、一層の財政の健全化を、ということ。欧米では将来世代への投資という発想が強くあります。歳出の5%から20%はその部分にかけるとのことですが、我が国の行政は、将来世代への投資をどれくらいかけるか、という発想には至っておりません。私は、遅れていた都市施設や基盤整備に意を注いできました。半ばは今の我々のために、半ばは子や孫のために、そういう思いを込めながら、厳しい長い平成不況の中、本当に苦勞して、一生懸命考えて、未来への種まきをしてきました。

しかし、これからは「真の實力都市」になるために、財政健全化の旗を今まで以上に高々と掲げるべきであると考えます。

四つ目、以上の下敷きの上に立って、今後は奥行きのある深い小田原の、「新しい成長」を、持続可能な発展と繁栄の方途を、より多面的に模索すべきです。そのために何が必要か、どうすべきであるのかを必死で考えていかねばならないと思うのです。

今年を「まちづくりの潮目の年」とする所以です。

ともに健康で頑張りましょう。

おだわら
情報

動き出す ジオパークの活動

問 企画政策課 ☎33 1 3 7 9

小田原周辺は、地球の表面を覆うプレートとの境目に当たり、学術的に貴重であることから日本の地質百選に「箱根火山」として選定されています。

そこで、市では昨年からの箱根火山と人々の営みの歴史的資源などをつなぎ、観光や教育の面から地域を活性化するため、関係機関と連携して「ジオパーク」の認定に向けた取り組みを進めています。

現在、日本にはジオパークがありませんが、国内でジオパークの活動を進めている地域が集まり、「日本ジオパーク連絡協議会」の設立総会が昨年12月に開催され、西さがみ連



邦共和国（小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町）の首長が参加しました。この協議会を通じて、全国各地の自治体や団体などと調査研究や情報交換を進めるとともに、国内

体制の整備に向け、国の各機関などへ働きかけをしていきます。

今後、西湘地域県政総合センターや県立生命の星・地球博物館など関係機関の協力を求めながら、西さがみ連邦共和国の枠組みでジオパークの検討を進めていきます。

【C】(仮称)小田原・箱根ジオパーク推進連絡会」講演会

ジオパークとはどんなものかを、第一線で活躍している専門家が紹介します。入場無料で事前申し込み不要です。

日時 2月7日(木)14時～16時

場所 県立生命の星・地球博物館

内容 ジオパークに関する講演会

(ジオパークとは/地質遺産—箱根火山の場合—)

講師 鹿児島大学名誉教授 岩松暉

さん・日本大学教授 高橋正樹さん

※ジオパークとは

地質学的に重要で、さらに観光地としても楽しめる、人と自然とのかかわりがテーマの公園。ユネスコの支援で2004年に「世界ジオパークネットワーク」が設立され、現在、ヨーロッパや中国を中心に53か所が加盟しています。

おだわら
情報

ごみ処理広域化の取り組み

問 環境政策課 ☎33 1 4 2 4

平成9年度に県が策定した「ごみ処理広域化計画」に基づき、ごみ処理の広域化を実現するため、小田原、箱根、真鶴、湯河原の1市3町では、平成15年度から検討を続けています。昨年度から、「小田原市・足柄下

地区ごみ処理広域化協議会」を設立し、将来のごみ処理や循環型社会への理想的なシステムを提案するための基本的な計画書、「小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化実施計画」の策定に向けて取り組んでいます。

しかし、1市3町では、ごみの分別の方法や資源化の品目、ごみ処理手数料や指定袋制度の有無など、多



くの違いがあります。そこで、基本的には資源化などが最も進んでいる小田原の基準に合わせる方向で、リサイクル率の向上やごみの減量、環境負荷の低減など、さまざまな観点から検討を進めています。

この広域化は、住民や事業者の皆さんの理解と協力がなくてはできません。実施計画の素案ができましたら、皆さんの意見を聞きながら、最終的な計画を平成20年度以降に県に提出できるよう、検討を続けていきます。

おだわら
情報

小田原駅東口臨時駐車場で調査を開始

問 広域交流拠点整備課 ☎33 1 6 5 3

小田原駅東口のお城通り地区で準備を進めている再開発事業。

今月から埋蔵文化財調査を始めますので、しばらくの間、駐車台数が30台程度減ります。

その後は、調査区域が広がり、さ

らに駐車台数が減りますので、改めて広報おだわらや市ホームページでお知らせします。

http://www.city.odawara.kanagawa.jp/c-planning/c-develop/saikaihatsu.html

ご意見をお寄せください 「新小田原市中心市街地活性化基本計画（素案）」

問 産業政策課 ☎ 33 1 5 1 9 ㊟ 33 1 2 8 6

小田原の顔、中心市街地。平成18年に「改正中心市街地活性化法」が施行され、それに合わせ「新小田原市中心市街地活性化基本計画（素案）」を作りました。

中心市街地活性化の計画って？

現在の「市中心市街地活性化基本計画」は、平成10年の「中心市街地における市街地の整備改善及び商業等活性化の一体的推進に関する法律」を受けて、平成11年に作ったもの。平成22年度を目標に、中心市街地の特性や資源を最大限に活用して市街地を活性化させようとする内容になっています。

なぜ新しい計画に？



平成18年に中心市街地活性化法が改正され、現在の計画に新たな視点を加える必要が生まれました。これまでは、経済活力の活性化に重点

を置いていましたが、新たな法では、都市機能の増進と経済活力の向上を一体的に進めることで中心市街地を活性化するものとなったからです。

そこで、中心市街地が広域的な交流の拠点として、地域資源を生かしながら活性化できるよう、新たな視点を盛り込んだ実効性のある新しい計画を作ることになりました。

詳しい計画の内容は、市ホームページのほか、産業政策課、各タウンセンター、支所・連絡所にある素案をご覧ください。

皆さんの生活と密接にかかわる中心市街地がより活気あるものになるよう、多くの皆様のご意見をお待ちしています。

応募方法

2月29日(金)まで(必着)に、産業政策課やタウンセンター、支所・連絡所にある意見募集用紙に書いて、郵送、ファクスまたはEメールで。
〒250-8555

Eメール

小田原市産業政策課
sangyo@city.odawara.kanagawa.jp
ホームページ
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/>

災害情報はFMおだわらで！ よく聞こえるコツを紹介！

問 広報広聴室 ☎ 33 1 2 6 1 FMおだわら ☎ 35 5 1 5 0

災害が起こってしまったとき、情報を得るための有力な手段として期待されているFMおだわら。市内を放送区域とするコミュニティ放送局です。

FMおだわらは、災害時に限らず、毎日24時間放送していますが、聞こえない、聞こえづらいという話も耳にします。FMおだわらの電波は、地形や建物の状況などさまざまな影響を受けています。家の中でも、1階と2階、窓際と部屋の中央などでその聞こえ方が変わるほど。

聞こえないと思ったら、試しにラジオをFMおだわらの送信アンテナがある市役所方向へ向けてみたり、外部アンテナをつないだりしてみてください。

ください。聞こえるようになるかもしれません。

また、小田原ケーブルテレビに加入していれば、その端末とラジオを同軸ケーブルで結ぶと、場所に関係なくよく聞こえるようになります。

なお、大地震などの大きな災害の場合は、国の許可が下りれば電波の出力を大きくすることができます。

そうすると、現在より強い電波が発信できるようになるので、今は聞こえづらい地域でも、よく聞こえるようになる可能性があります。

災害時は、防災行政用無線やFMおだわらなどで情報を確認し、慌てず、騒がず行動するようにしましょう。

FMおだわら 78.7MHz

ホームページ
<http://www.fm-odawara.com/>

Eメール
fmo@fm-odawara.com



市役所1階のスタジオに来てみませんか。
出演者も募集中!!

合併検討会情報

なぜ今、合併なの？

平成12年に地方分権一括法が成立し、「平成の大合併」が全国的に行われています。県西地域の2市8町でも、「県西地域合併検討会」を設立して市町村合併の在り方などについて調査・研究を行っています。

では、なぜ今、市町村合併が必要なのか、主な理由を挙げてみました。

- ①進む少子高齢化
少子高齢化の進行と「人口減少社会」の到来で、税金を負担するカタが減る一方、高齢者医療など福祉へのニーズが増え、市町村の財政負担が大きくなります。
- ②厳しい財政状況
国も自治体も行財政改革に取り組んでいます。一定の限界があります。
- ③地方分権が進展
国から地方への分権の推進により、住民に最も近い市町村には、自らの判断と責任で、安定した質の高い行政サービスを考え、

企画政策課 ☎33-1239



行うことが求められています。

市町村合併は、これらの課題を解決するための有効な手段です。国も、「市町村の合併の特例等に関する法律」を定め、合併を支援しています。

このような社会環境の変化から、今、多くの市町村合併が行われ、平成11年3月31日に3、

232あった市町村数は、平成19年12月31日には1,798と、約44%も減少しました。

県内でも、相模原市が、津久井町、相模湖町、城山町、藤野

町と合併をしました。

私たちが住む県西地域も合併を検討することから避けては通れません。今こそ、市民、議会、行政が一体となって市町村合併を正面から話し合うときなのです。

次号では、市町村合併のメリットと課題をお伝えします。

県西地域合併検討会における検討状況などは、ホームページをご覧ください。

http://www.city.odawara.kanagawa.jp/gappei/

Zoom IN

西湘バイパス延伸整備の早期実現を国土交通大臣に要望

国県事業促進課 ☎33-1527



小田原市、真鶴町、湯河原町の1市2町で組織する「小田原真鶴道路建設促進協議会」は、会長の小澤市長が、青木真鶴町長、富田湯河原町長、地元選出の河野洋平衆議院議長とともに、昨年12月6日、冬柴国土交通大臣へ西湘バイパス延伸整備の早期事業化に向けた要望を行いました。

西湘バイパスの石橋インターチェンジから、その先の真鶴道路旧料金所付近までは、土、休日を中心に慢性的な交通渋滞が生じ、地域住民の日常生活をはじめ、経済活動などさまざまな面に大きな支障を及ぼしている、この区間のバイパス整備が長年の懸案となっています。

こうした状況を踏まえ、冬柴大臣には、観光交通への対応や防災上の課題など整備の必要性を説明し、要望書を提出しました。

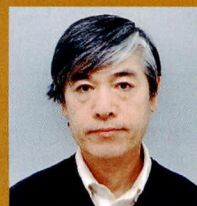
冬柴大臣からは、今後、技術的な検討などを行い、平成20年度中には事業の在り方をまとめたいとの表明がありました。

冬柴大臣(左から4人目)に要望を伝える小澤市長(左)と河野衆議院議長(左から2人目)

研究が進む千代寺院跡

これまでの発掘調査から

その② 「千代古代寺院跡の景観」



慶應義塾大学
准教授
岡本 孝之

古い歴史を誇るわがまちおだわら。小田原城のほかにも有名な遺跡が数多くあります。

特に、千代には「千代寺院跡」という相模国で建てられたもとも古い寺院の一つがありました。

出土している瓦から、建てられた時期は今から千年以上も前の8世紀の初めごろと考えられています。

前号に続き、千代寺院跡を紹介していきます。

文化財課 ☎331715

昭

和33年(1958)以来の調査と研究で、千代台地上の遺跡が古代寺院跡であることは確実となった。しかし、その性格は相模国分寺であるという説や、周辺に国府が置かれたとする歴史地理学者や郷土史家もいて、こんどんとしていた。

近年になって、出土した瓦の研究が進み、松田町のからさわ瓦窯跡(移築保存されている)で焼かれた初期の瓦は、8世紀初めかそれ以前のもと考えられるので、千代寺院跡は、白鳳時代に建立された国分寺創建以前の寺院跡で、1,300年前となる。

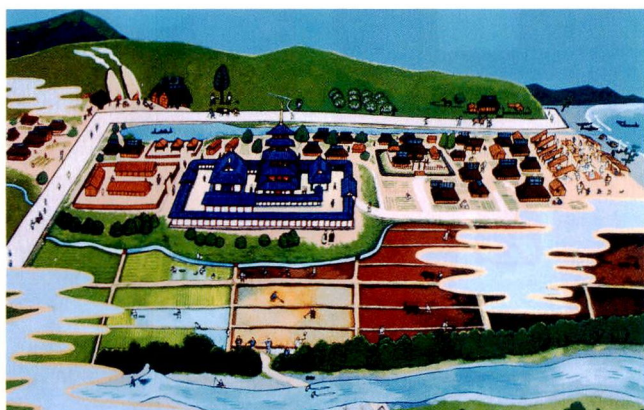
相模国(神奈川県)には、三浦郡(横須賀市)の宗元寺跡、鎌倉郡(鎌倉市)の千葉地寺院跡、高座郡(茅ヶ崎市)の下尾尾寺院跡があり、大住郡(平塚市)、余綾郡(大磯町)などでも瓦が出土している。不明な郡もあるが各郡に一つずつの古代寺院が国分寺以前に創建されていた。平塚市に国府ができる前に、郡役所(評家、郡衙)が置かれ、それに対応するかのよう寺院跡が発見されたので、郡寺と推定されることもあるが、実際は各地の豪族の氏寺として創建されたものらしい。千代寺院跡は古代足下郡の豪族、漆部直氏が候補として挙げられている。

郡衙跡は鎌倉郡や高座郡で発見され、正庁、正倉などが発掘された。千代周辺でも曾我病院の建設工事で

井戸が発掘され、木簡なども出土して役所関係の遺構の一つでは、と注目された。

軒先を飾る軒丸瓦は、奈良県飛鳥の山田寺や川原寺の系譜をひくもので、国家の技術的支援を受けている。鬼瓦は内田盛雄氏や前場幸治氏が指摘されたように相模国分寺や武蔵国分寺とも関連があり、相模国風の祖形と見なされている。軒丸瓦は駿河国富士郡(富士市)三日市寺院跡に系譜が続いている。また、改修期の瓦は相模国分寺や三浦郡宗元寺跡との関連を示している。

千代寺院跡の伽藍配置は、東大寺式と考えられたこともあったが、加藤誠夫氏の想定した法



千代寺院付近のようす(奈良・平安時代)【絵:さかいひろこ】

隆寺式が支持されつつある。それも私の想定案よりも一回り大きな寺院跡になりそうである。

最初に瓦が多数採集された小泉武雄氏宅とその東隣の発掘地点では、仏教遺物が豊富で、最近の調査では埴(レンガ)も出土した。屋根は瓦葺きで鬼瓦が四方をにらみ、内陣の床は埴敷きで螺髪のある仏像が安置されていたのであろう。

この地点の東南、以前に石塚があったところの一昨年の発掘で、念願の堂塔跡の掘り込み基壇跡が発見された。忠魂碑のある台の塚の地点は、1960年に発掘された。上部から中世の石塔などが発見され塚は中世のものだが、周辺に礎石と思われる大石や瓦敷きなどが発見された。これら3か所を含む100m四方に主要な堂塔建物があったのであろう。

古代足下郡の郡役所と寺院の周辺には、さまざまな工房が立ち並び、条里の水田が広がる。足柄峠を越えてきた東海道は平塚の国府に延び、国府津の三ッ俣遺跡には海上交通の港が予想されている。千代寺院跡周辺は都市的景観を完成させていたのである。

近年、千代周辺は住宅地化が進み、発掘調査が頻発している。このままでは寺院跡を保存することができない。これまでの発掘調査や研究の成果をまとめ、千代寺院跡の実像をあぶり出し、保存につなげたい。

子育てにやさしいまなざし事業の ステッカーができました

やさしいまなざしで子育てを応援!



↑このステッカーが「子育てにやさしいまなざし」の目印

子育てにやさしいまなざし事業は、乳幼児がいる家庭に便利で心遣いのあるサービスの情報を提供するもの。おむつ替えシートや授乳室など、子どもを連れて外出するときに便利な設備や、子育て家庭を対象とした割引サービスなどがある施設・商店に、目印となるサインステッカーを表示して、まち全体で子育て家庭にやさしいまなざしを注いでいきます。そのガイドラインとサインステッカーが完成しました。

子育てにやさしいまなざし事業とは

子育て中の皆さんが日々の生活で感じていることを基に、どのような「やさしいまなざし」が子育て家庭にとってうれしいのかをまとめたものが、子育てにやさしいまなざし事業ガイドライン。子育て中や子育てを支援しているかたで構成した、ガイドライン検討委員の皆さんの実体験に基づく意見交換によって、作られました。

ガイドライン
子育て支援の

水先案内

参考にしていただくなど、子育て支援の環をを広げるための、いわば水先案内として活用していきます。

今後、子育て支援の顔となる「シンボルステッカー」と、ガイドライン検討委員の生の声をまとめた「アイテムステッカー」を組み合わせ、施設や店舗の入口などに張られるサインステッカー。

シンボルステッカーは、34点

サインステッカー
社会がやさしく
包み込むように



↑さまざまなサービスをお知らせするアイテムステッカー

★★ 子育てにやさしい商店など募集中! ★★

事業に参加していただける商店などを募集しています。事業の趣旨や参加方法など詳しくは、子育て支援課までお問い合わせください。

★★ やさしいまなざし情報をさらに拡大! ★★

市ホームページや携帯情報サービスなどを活用して、やさしいまなざしに関する情報を提供していきます。また今後、サービスを提供している施設や店舗の情報を盛り込んだ「やさしいまなざしマップ」を作り、一層分かりやすい情報を発信していきます。



ガイドラインとサインステ

子育て真っ最中の皆さんの毎日は、子どもが成長する喜びにあふれるとともに、とても忙しく慌ただしい日々ではないでしょうか。

そんな子育て中の皆さんを、まち全体の「やさしいまなざし」で応援しましょう!

子育て支援課 ☎33-1453

の応募作品の中から選ばれたもので、国府津在住の石塚靖子さんの作品です。

そして、石塚さんの原案をデザイン化したのが、東海大学教養学部芸術学科デザイン学課程の池村明生研究室の皆さん。アイテムステッカーの作成にも取り組んでくれました。

市全体が 子育て家庭の応援団

市ではこれまでも、子育て支援センターを増設したり、公施設にベビーキープやベビシートなどを設置したりと、子育て家庭が安心できるまちづくりを進めてきました。

そして、地域の皆さんや商店のかたにも子育て家庭の思いを感じ、協力していただきながら、市全体で見守っていきこうとするのが、子育てにやさしいまなざし事業なのです。

たくさんのかたの子育てへの思いが詰まった、ガイドラインとサインステッカー。

検討の過程で見えてきたのは、人が人を育てる営みである子育てには、周囲の支えやつながりが大切ということ。

私たち一人一人が子育て家庭の応援団！優しいまなざしがあふれる街にしていきましょう。



【ステッカーデザイン作成】

東海大学生の皆さん

(左から) 天野さん、池村教授、井上さん、相川さん、浅利さん



【ステッカーデザイン原案作成者】

石塚靖子さん



【ガイドライン検討委員】

松崎美佳さん

検

討委員会では、「外出するときは特に大変」「孤独との戦い」など、委員の皆さんの本音が飛び交いました。そんな子育てに関する生の声が盛り込まれているのが、ガイドライン。

初めての土地で初めての子育てを経験して、不安はあり

ましたが、その中で安心できたのが近所のかたからの声かけ。まさに「やさしいまなざし」です。

子育て家庭には、ちょっとした会話や何げない心遣いがとてもうれしいんです。

このガイドラインをきっかけに、子育て支援の環が広がればいいですね。

優

しく温かく包んでいるお母さんと、その中で安心してやすやすや眠っている子どもを、煮豆のほっこり感を出すように柔らかな曲線で表しました。

今の子育て環境は、一人で悩みを抱え込んでしまったり、周りに助けを求めにくかったりします。

困ったときに、ほっと安心できる場所を気軽に利用できて、笑顔がいっぱい増えるといいですね。

これがきっかけになり、思いやりのある心が持てるような街になればと思います。

このような市の取り組みに参加できて、とてもうれしいです。

子

育てという未知のことを考えられて、私たちの視野が少し広がりました。原案を見て、母と子の関係が伝わってくる温かみがあるものだと感じました。

その原案者の気持ちを大切に、手書きならではの味わいを失わないようにデザインしていくのが大変でした。

目の位置、手の太さ、子どもを包み込むような丸みなど、微調整を繰り返して、よりぬくもりを出すにはどうすればいいかということを中心に掛けました。

多くの店舗や施設が参加して、市民や観光客のかたが、家族で安心して住めたり旅行したりしてもらえたら、うれしいです。



連載

学校自慢!

このコーナーでは、小・中学校でのユニークな取り組みを紹介します。子どもたちの生き生きとした表情を見ると、小田原の未来も安心!という気持ちになりますね。

☎教育政策課 ☎33-1671

今月号は…

下中小学校

(児童数：455人)



楽しく仲良く!「マウンテンラリー」

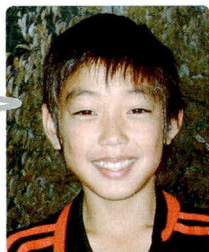
下中小学校では、11月になると、全校児童を縦割りにして6学年が混ざったグループで、学校と二宮町にある吾妻山を往復する「マウンテンラリー」を行います。今年度は、11月9日に36グループが3コースに分かれて、途中でクイズ問題を解きながら吾妻山を目指し、お弁当を一緒に食べ、ストレッチを楽しみました。

グループのリーダーである6年生は、当日まで大忙し。どのコースで行くのか、全員が安全で楽しく行くにはどうしたらいいのか、何度も話し合います。当日も、地図を片手に道の確認はもちろん、歩く速さがみんなの負担にならないか、車が来ないか、安全を確認しながら行動しなければいけません。

笑いあり、ときには意見を言い合いながら、みんなで同じゴールを目指して、一生懸命に歩きます。

その中で子どもたちは、互いを思いやることの素晴らしさ、責任を持つことの大切さ、最後まであきらめず取り組んだ充実感など、たくさんのお話を学び、一回り大きくなって学校へ戻ってきます。

また、このラリーは、スクールボランティアなくしては語れない活動です。「元気に歩いていく子どもたちを見られて、とてもよかった」「6年生がしっかりと世話をしている素晴らしい!低学年の子どもたちが慕っているようすが伝わってきた」などの言葉のとおり、子どもたちの笑顔のため、活動してくださっています。ボランティアの皆さんの大きな力で支えられ、これからもマウンテンラリーは続いていくことでしょう。



なかにし かいと
中西 魁さん
(6年生)

今回は、リーダーとして、責任を持って取り組もうと頑張りました。帰りに1年生が疲れてしまったので、5年生とかかわるがわる、おんぶしました。とてもよいことをしたと思います。



いずみや はるな
泉谷 春菜さん
(6年生)

マウンテンラリーは、下級生と上級生が楽しく過ごせる行事です。グループのリーダーとして下級生をまとめるのが大変でした。だけど、みんなが楽しそうにしてくれていたのが良かったです。



おだわら

花通信

さまざまな花に彩られ、四季折々の表情を見せるおだわら。毎月、花の名所を紹介します。

その11

小田原フラワーガーデン

☎フラワーガーデン ☎34-2814
農政課 ☎33-1494

春の気配が見え隠れするこの季節。一足早く春を感じる花を紹介합니다。

一つは「菜の花」。油菜科の仲間、満開時には辺り一面黄色い絨毯が敷かれたように見えます。食用としても注目されていて、お浸しや和え物として使えます。

もう一つは、「枝垂れ梅」。バラ科で、花は梅と同じですが、枝つきの「枝垂れ」るさまが特徴で、その姿はまるで天空に花がさを開いたようです。

気象条件にもよりますが、菜の花は各地の水田(栢山の酒匂川沿いでは3月下旬ごろに菜の花まつりを予定)などで、枝垂れ梅はフラワーガーデン内「溪流の梅林」などでご覧になれます。



↑菜の花



↑枝垂れ梅